
笑談～ぐっどもうにんぐ編～

白黒 朝夜

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

笑談／ぐつどもつにんぐ編

【Zマーク】

Z8230Z

【作者名】

白黒 朝夜

【あらすじ】

雑談／アリス編／の短編版です。

雑談を見て無くとも楽しめると思いますよ。

あ、注意ですが

腐向けです！そこを理解していただければOKです。

(前書き)

腐向けです。
てか、[冗談として見て下さい]。

遅い。

俺、エーチェは待っていた。

先生が遅刻するなんてありえない！

「先生はいつも遅刻するから、一時間田は白留だよ。」「隣で白雪さんが教えてくれる。

いや、この人たちは、20回ぐらい人生をやって、高校レベルの授業なんか簡単かもしれないけど、俺は違う。だから、勉強をするんだ！！

「僕、先生を呼んできます。」

そう言って、教室を出る。

俺はクラスでは優等生をたもつている。

だから、みんなのまでは自分の事を「僕」と言つている。

ひとまず、自分の部屋に戻る。

そして、引き出しの奥のほうを探す。

「あつた！」

先生の部屋の鍵だ。

帽子型のキー ホルダーが付いた鍵で、

先生に無理やり持たされた。

この鍵は、先生が寝ていたときの手段として持つておく。

そして、俺は先生の部屋に着くと、ノックをした。

・・・寝てるのか？

仕方が無いので、鍵を開けて中に入る。

「先生・・・・・！」

俺は固まってしまった。

ベッドにはハッター先生とマーチ先生が一緒に寝ていた。

いや、それならまだいい。

問題は、

一人が裸で一緒に寝ているのだ。

「おや・・・おはよづござります。」

ハッター先生が起きた。

「ふあ～、あれれえ？ エージェ君がいるよお～」

マーチ先生も起きた。

俺は考える。一人とも男だよな・・・。

「あの・・・なんで、マーチ先生が一緒に寝てるんですか？」

「気になつたので、訊いてみた。

「兎族つて、寒いのが苦手なんだよお～。だから、一緒に寝たんだあ～」

じゃあ、服を着てください。

「でもねえ～、ハッターが全然寝かしてくれないんだよお～」「マーチ君が可愛かつたので寝かせたくなかつたんですよ。」

せめて言い訳をしてください。

「ボクは嫌だつて言つたんだよお～」

「でも、すゞい良い声で喘いでましたよね。」

・・・・・

「そ、それはあ～ハッターがあ・・・」

「言い訳は良くないですよ。あんなに感じてたのに。」

・・・・・

「ち、ちがうよお～・・・」

「じゃあ、体にききます?」

・・・・・

「ちょ～や、やめ・・・」

「おや、体は正直ですね。」

大人なんて・・・。

「や・・・あ・・・」

「こ～なんか、もうこ～んなになつてますよ。」

大人なんて・・・。

「ら、らめええ・・・」

「これでも、感じてないなんて言えますか？」

大人なんて・・・。

「大人なんて大嫌いだ！！！」

走り出す俺。

その目には涙が浮かんでいた。

その日から5日間、エージェは人間不信になつたとさ。

しまい（笑）

お

(後書き)

最後のエージェの台詞・・・

ゲ 戦記で聞いたことがあるようなフレーズだな・・・
気のせいいか?
気のせいだよな。
気のせいだよね!!!

見てくれた方、ありがとうございます！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8230n/>

笑談～ぐっどもうにんぐ編～

2010年10月10日17時41分発行